

(公社)日本産業退職者協会広島支部

〒730-0022 広島市中区銀山町3-1 ひろしまハイビル21 16F リージャス・ジャパン広島事務所内

日退協ホームページアドレス <https://jariphiroshima.sakura.ne.jp/>

30周年を迎えて



(公社)日本産業退職者協会
広島支部 支部長

谷口 博

昨年春から、新型コロナウイルス感染症により我々の生活と活動は大きな影響を受け、まだまだ活動の制約が続くこととなります。コロナワクチンの接種が始まったとはいえ市民への接種の目途が付くのは今秋と思います。

第30回支部総会も昨年に引き続き文書総会になりました。2年続きの文書総会を避けようとして対策を考えましたが、会員の安全を考え、しかも市民施設が使用できなくなり、やむなく再度の文書総会にしました。議案には多数の賛成をいただき有難うございます。幹事会の承認を得てHPで発表します。

広島支部は平成4年(西暦1992年)4月25日に設立し、今年は支部創立30周年を迎える記念すべき年であります。しかし30周年祝賀行事は新型コロナ感染の状況を見ながら行うことを余儀なくされました。そのような中で祝賀会は来年に繰り延べとし、祝賀行事の活動期間も来年9月末までにしました。その間に事業・同好会の行事の一つを30周年の冠行事にお願いしています。

我々の活動は会員が集まり、顔を合わせて、元気を確かめ合いながら、笑顔で行事に参画が一番の活力のもとであり、早く素晴らしい活動を取り戻したいと考えています。

令和3年3月末で正会員が400人を切り394人になりました。これは平成11年(西暦1999年)以来のことです。退会の理由は高齢が一番ですが、同好会活動が無いのでという理由もありました。広島支部活動を楽しく活

発にするためには新入会員加入促進は重要課題で、ウイズコロナのなかでこれからの活動を工夫することが新規会員の獲得と会員の維持に必要です。

今年から、高齢者雇用安定法の改正で企業が従業員を70歳まで雇用する努力義務を負います。働き方の変わる節目であり、日退協の活動も社会の付託に応える役割が必要で、この情勢に応じた活動を目指し30周年記念活動を実りあるものになりたいと思います。

2021年4月二木会ショートスピーチ抄録

「留学生との交流会」の世話人になって思うこと
問われる国際交流

講演者 中村 松代



12年前より留学生世話人となり16カ国の留学生と我が家で交流してきました。彼らが将来、日本と母国の友好の架け橋になるキッカケになればとの思いからです。共に日本食を食べ、日本語で話し、日本文化に触れる機会を作りました。彼らの学ぼうとするエネルギーは大きく、目的達成のための努力する姿に胸打たれます。

コロナ禍中半年近くも帰国できず、我が家にホームステイしたマレーシア人留学生も居ました。外出、旅行など大学より禁止され、昨年からの留学生は特に困難な状況にあります。中国人留学生は彼らの意思とは関係なく大使館命令に従わねば、家族が拘束されてしまいます。広島市中から全てのマスク、消毒液等の買い占め命令が出て、中国に送っておりました。その後マスク外交が開始され我が家にも買うよう促されました。

8年以上前より内モンゴル、ウイグル人などへの弾圧は留学生より聞いていました。モンゴルでは店に数人集まっただけでその店は潰されました

と話した留学生はアメリカに亡命しました。フィリピン人留学生は特に生活条件が厳しく、食事もやっつです。

日退協のいきいき基金は大切な活動です。病気やケガや災害時の対応支援が必要です。今後色々な国際情勢の変化の中、どのような留学生支援が最良なのか問われております。皆様と共に考えていく必要が有ると思われます。

(留学生との交流会 世話人)

春の自然観察会に参加して

大西 健二

日退協の同好会活動もコロナ禍で活動が非常に制約され、休会も増えてきたのは大変残念なことです。

私は入会后直ぐに参加した「山を歩く会」や「歴史探訪」などでアウトドアを楽しませて頂いております。そうした中、『園芸・盆栽同好会』の催し案内の中で、自然観察会とか恐羅漢山の文字が目に留まり早速、友人畠山氏と初参加申し込みした次第です。



開催日の5月10日は幸い晴天にも恵まれ、感染対策も万全になされた貸切りバスで、参加者18名が県北安芸太田町へ向かいました。到着した恐羅漢スキー場は心地よい初夏を思わせる高原の風が吹き抜け、コロナ禍のことも忘れて思わず叫びたくなるような爽快な気分になって、参加者全員が笑顔で広大なスキー場のゲレンデを歩きました。私自身は蕨とゼンマイの違いも分からない初心者でしたが、皆さんから採り方など親切に教えて貰い、お陰様で蕨とウドをたくさん収穫出来ました。

山菜採りの後、立ち寄った芸北町八幡原の「山野草園」では、山野草の手入れをされているボランティアの方に園内を案内してもらいました。私が見つかったのは、水芭蕉と花菖蒲くらいでしたが、同好会の皆さんはさすがにたくさんの草花(イワカガミ、九輪草、セッコク、コケリンドウ、シロモチソウ等々)の名前をよくご存じで驚いた次第で

す。

帰宅後、早々に山菜のあく抜きだけは私が担当して、後は家内にキンピラや酢の物などに調理して貰い、当日を振り返りながら酒のつまみに舌鼓を打ちました。世話人の方々には下見までされ、大変お世話になり有難うございました。

広島県も遂に緊急事態宣言が発出され憂鬱な気分になりますが、早期収束と日退協広島の会員が「全員元気」で同好会を楽しめる日が早く来ることを祈念致します。

(会員)

紫陽花の友

江中 共治

紫陽花が咲く頃になると思い出すことがある。友が逝って早や三年、丁度梅雨時のこと、彼が入院していた病床の窓辺に、いつもひっそりと咲いていた紫陽花。

その日も白い小鉢に植えられた紫色の紫陽花が眼に止まり、妙に頭に残った。

亡くなる一年くらい前だったろうか、紫陽花の油絵を病床に届けた。月一回の「写画一る会」では仕上げる事ができないので、皆が描き終えた後、濡れた新聞紙に紫陽花を包んで家に持ち帰り、一気に仕上げた。

絵をみて、唇の周りが少し緩み、笑っているように見えた。私は思わず「よかった」と心の中で叫び友の手を握った。

この頃になると表情も硬くなり、滅多に喜怒哀楽を顔に出さなくなっていたから、「大丈夫だ、頑張れ」と思わず大きな声になり、自分の声に逆に驚いた。

いつだったか忘れたが、彼がかってこんなことを言っていたことを思い出した。「紫陽花は雨に打たれて咲き、しかも七色に変化して面白い」と。自分を投影したのだろうか、そんな彼も今はいない。回想していたら遠くに雷鳴を聞いたような気がして、外を見たら雨が瞬く間に強く降り出した。

(会員)



陶芸同好会の現状紹介

宮本 信昭

陶芸同好会は作陶活動に伴う設備が必要で、何処でも活動が出来るわけではない為、現在は条件が合う広島市草津公民館にて活動している。但し日退協としての活動名登録は行わず、従来から活動されている陶芸の会の



内、二つの会に分かれて入会して一緒に陶芸活動他公民館まつりにも協力参加しています。近年、諸事情で会員が減少しており制限人員に少し余裕もありますので陶芸をやってみたいと思われている方に日退協会員所属の会を紹介します。

○陶芸クラブ・・・毎月第一・第三水曜日曜日に1か月4回を基本に活動。会費月1000円で粘土代・道具代自己負担です。作品焼成費用は作品の大小で一品ごとに異なり少額です。

○鉢作り教室・・・毎月第一金・土曜日と第三金曜日の月3回を基本に活動。会費は2か月で3000円、作品焼成代込みの会費で粘土・道具代自費です。入会金は何れの会も1000円です。何れの会も焼成作業は会員が行う。

陶芸同好会として統一活動は展示会・陶芸作品見学会等を行い、会員相互の親睦を図っております。現在会員のほとんどは日退協所属の方です。

(陶芸同好会 代表世話人)

春の撮影会に参加して

須賀 紀哉

PC・DCを楽しむ会と共催の「春の撮影会」を広島市植物公園で開催しました。総勢28名、写真を楽しむ会から17名が参加しました。

桜まつり開催期間中であり、八重桜が満開、チューリップ、ポピーが迎えてくれました。植物公園正門に集合し、撮影会の注意事項を聞き、満開の八重桜を背景にして記念撮影を行いました。

自由行動で3密を避け、園内の大花壇やベゴニア・ランなどを育てている温室及び、シャクナゲ園などで思い思いに撮影しました。帰りに造幣局の桜を撮影し、美しい花々に癒された一日でした。

私は家族の記念写真から始めたが、画才や絵心

もない自分は写真に魅せられました。どんな風景も、二度と同じということはありません。時間とともに微妙に変化する様をカメラで拾ってゆく、きれいな風景、美しい花があります。楽しいものです。

相田みつを氏の言葉に「あなたの心がきれいだから、何でも綺麗に見えるんだなあ」があります。

コロナのワクチン接種も夏を過ぎれば高齢者に行き渡るでしょう。そうすれば行動範囲も広がり、更に充実した同好会活動が期待できます。

「写真を楽しむ会」には良き友がおり、大いに語る楽しい会であります。



最後に共催した「PC・DCを楽しむ会」の皆様楽しいひと時を頂きお礼申し上げます。

(写真を楽しむ会 世話人)

謡を楽しむ

北村 洋子

20代後半から謡を始めました。夫の転勤先で、何度も中断しつつ続けてきました。広島に帰り、「謡を嗜む会」に入って9年。合計して14年程になります。

2ヶ月に一度の例会は、各々が曲の一部を披露します。少々緊張して出来る限り大きい声を張り上げて謡います。自宅では名人の古いカセットテー



プを聴いて練習します。

先輩方は40年・50年と謡い続けたベテラン揃いです。謡う声は若々しい

限りです。それを聴くのは大変勉強になります。

新年懇親会の舞台に立たせてもらうのも嬉しい経験です。今年はコロナ禍で中止になりました。

若い頃、世阿弥の一子相伝の書『風姿花伝』に感動して始めた謡です。「謡を嗜む会」に出会えたのは本当に幸運でした。

入会時に12名だったメンバーは5名。少人数ですが、意欲的に取り組んでいます。過日の例会後の会話。「練習は裏切らないね、少しずつでも上達を感じるね。」とお互いを励まし合いました。

大きな声で語るのは存外気持ちがいいです。語を始めたい方が入会されることを願っています。ご一緒に語ってみては如何でしょうか。

(語を嗜む会 副代表)

■■■■■■■■■■ 詩吟を楽しむ会 ■■■■■■■■■■

兒玉 旨雄

私、年の始めに「毎年1～2点新しい事に挑戦し、それを継続する」という目標を立て実践しています。心身の健康、すなわち人(家族も含め)に迷惑をかけないための高齢者のたしなみとの考えです。その一環としてでもありますが2018年1月、日退協で活躍されている坂井修一様の声掛けで詩吟の会に入会して3年あまり。内、半数は新型コロナウイルスの影響で自粛生活の為、残念ながら私自身は休眠しています。

詩吟は和歌や漢詩などを独特の節回しで吟ずる(歌う)芸能。詩文の素読(朗読)を基本とし、素読の後に特有のメロディ(節調)を加えることで、より効果的に詩情を表現する。とありますが、私の吟詠は効果的な抑揚の術もなく専ら声を張り上げるだけ。でも入会半年後に人前で独吟する機会を頂いた事で何倍も練習し、伴奏付で吟詠した事は良い経験になりました。ただ練習のし過ぎで喉枯れのため約



1ヶ月高い声が出なくなったおまけ付きでしたが。

現在会員16名。私が入会した時は20名でした。毎月、第3月曜日午後1時30分より2時間の学習。前半で毎回新しい吟を学習、そしてそれを独吟します。後半は各々好きな吟を独吟する。しかし前半で時間を掛ける必要が有る為、後半の独吟はないことも度々。

年を重ねてくると大声を出すことは健康法の一つ。吟詠することで更なる健康を手に入れましょう。76歳。今日が人生で一番若い日なのだ。そう思う。

(会員)

広報の窓		
行事・同好会参加人数 R3.03～R03.06		
		()は家族会員再掲
◎通常総会		0人 (0人)
◎世話人交流会		55人 (0人)
◎常任幹事会	常任幹事・幹事会合同	0人 (0人)
◎幹事会	合同幹事会	28人 (0人)
◎新入会員の集い		0人 (0人)
◎30周年準備委員会		14人 (0人)
◎二木会		181人 (0人)
◎留学生との交流会	会員	0人 (0人)
	留学生・他	0人 (0人)
◎エリザベトコンサート		63人 (0人)
◎ボランティア委員会		0人 (0人)
◎ゴルフ同好会		65人 (1人)
◎テニス同好会		95人 (6人)
◎釣り同好会		12人 (0人)
◎四風会	月例・大会	0人 (0人)
◎社会見学会		36人 (4人)
◎木楽会		0人 (0人)
◎朱樹会		0人 (0人)
◎歴史探訪会		0人 (0人)
◎四季の会		0人 (0人)
◎園芸・盆栽同好会		33人 (0人)
◎囲碁同好会		46人 (0人)
◎写真を楽しむ会		57人 (1人)
◎旅を楽しむ会		0人 (0人)
◎語を嗜む会		9人 (0人)
◎まほろば句会		0人 (0人)
◎がんす川柳会		58人 (4人)
◎山を歩く会		27人 (3人)
◎写画一る会		25人 (1人)
◎男性料理教室		0人 (0人)
◎PC・DCを楽しむ会		46人 (0人)
◎PCDC共催写真撮影会		28人 (1人)
◎陶芸同好会		66人 (0人)
◎詩吟を楽しむ会		29人 (0人)
◎卓球クラブ		96人 (13人)
◎女性バラエティ同好会		0人 (0人)
◎G・ゴルフを楽しむ会		0人 (0人)
◎エスキーテニス		91人 (1人)
◎演歌ミニ道場		0人 (0人)
◎なば愛好会		0人 (0人)
参加人数計		1160人 (35人)
◎切手収集	累計件数 2901件	ベルマーク 累計件数 474件
◎世話人交流会	3月25日	合同幹事会 4月22日
◎30周年実行委員会	5月13日	
◎事務局会議	3月4日、3月24日(発送)、4月3日、5月6日、5月24日(発送)、6月3日	

●●●● 編集後記 ●●●●

コロナ禍で今年の支部総会は、昨年に引き続き文書総会になった。誠に残念に思う。

広島県にも『緊急事態宣言』が発出され、外出の自粛や飲食業などに営業時間短縮の協力要請が出されて、人出は少なく経済に暗い影を落とす。当分の間不便なことになるが、我慢の時だろう。

広島市でもワクチン接種が始まり、5月から80歳以上の高齢者に接種券が届き始めた。7月中に高齢者の接種を完了すると発表があったが、変異株の感染拡大を考えると、20代の若者が早く接種できるようになって欲しいと思っている。

ワクチンの普及によりコロナが収束し、安心して集える日が早く来て欲しい。二木会をはじめ、広島支部の活動が自由にできるようになり、先送りとなった広島支部創立30周年記念の祝賀会と共に祝いたいものである。

(J・H)